

解剖実習 6/2
背部2

今日の実習内容（1）

頭頸部

後頭下筋群の起始停止を完全に剖出



環椎・軸椎を露出させるために後頭下筋群を除去し、環椎後頭膜ほか靭帯を確認
※必ず起始停止を剖出し、筋の全容を確認した後に除去する

仙骨～体幹部

横突棘筋群（半棘筋、多裂筋、回旋筋）

棘間筋・横突間筋長・短肋骨拳筋をすべて剖出



上記の筋を除去しつつ、脊柱の靭帯を確認

棘上靭帯

棘間靭帯

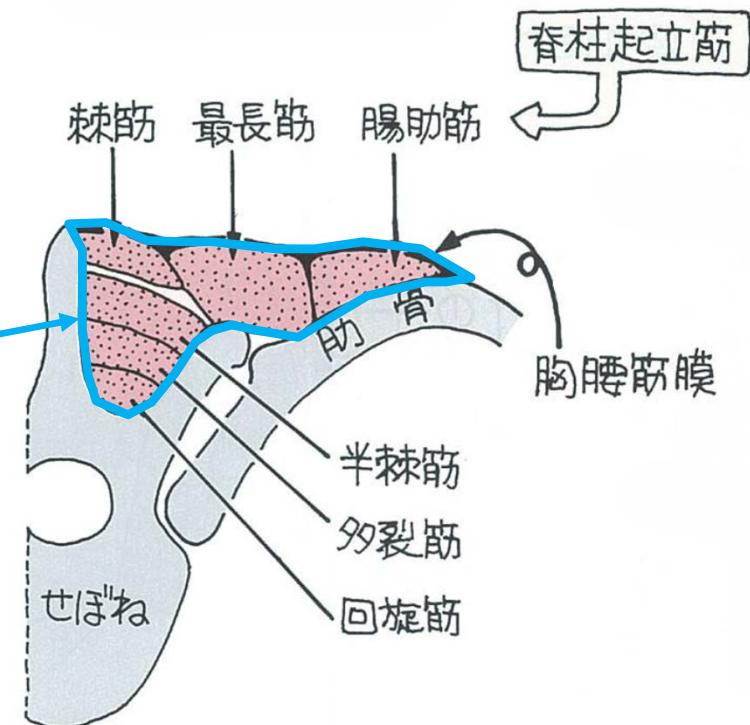
横突間靭帯

頸椎から腰椎までの椎弓に付く筋を除去し

骨表面を露出させる

→ 筋が残っていると

椎弓を鋸で切ることができない



今日の実習内容（2）

【脊柱管の開放】

- ① 双鋸を用いて棘突起の両側の椎弓を切って開放する
 - ・ 棘上靭帯・胸腰筋膜の残りはすべて棘突起に合わせて切る
 - ・ 双鋸の幅は約2cm程度。(腰椎の棘突起を挟むくらい)
 - ・ ある程度、双鋸で切れ込みを入れる → ノミ・槌で椎弓全体を開放
- ② 頸部で 環椎十字靭帯(縦束・環椎横靭帯) 蓋膜 翼状靭帯
全体で, 黄色靭帯 を確認

【脊髄神経節の剖出・脊髄の取り出し】

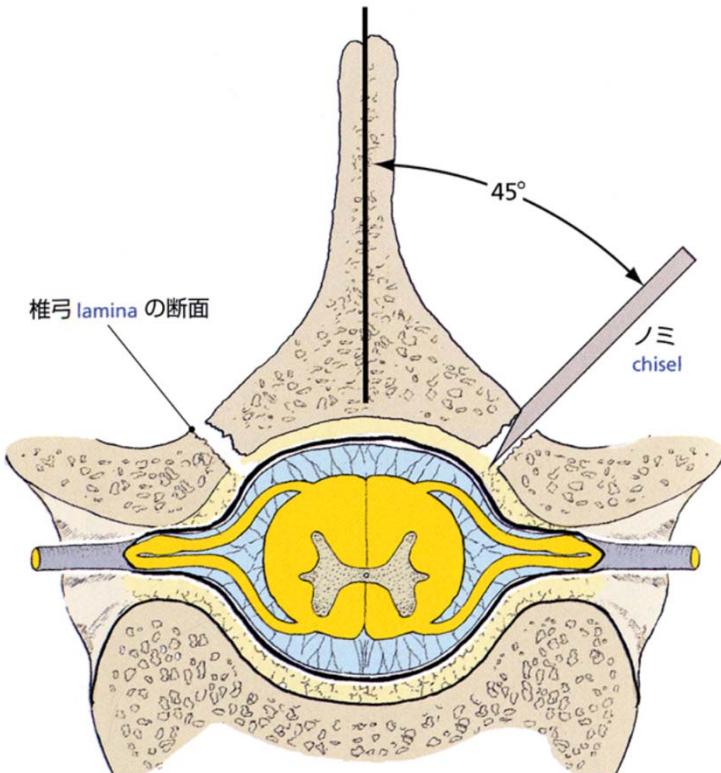
※この時点では、脊髄・脊髄神経節は硬膜に包まれたまま

- ③ 椎骨の外側をノミ・骨鉗子で開放し、椎間孔に向かう脊髄神経を観察
環椎-仙骨まですべての脊柱管を開放
- ④ 頸髄、胸髄、腰髄仙髄で、必ず合計3対以上の脊髄神経節を剖出して観察
- ⑤ 環椎の上で、脳硬膜につながる脊髄硬膜を切断する
- ⑥ 剖出した3対の脊髄神経節をつけた状態で、硬膜ごと脊髄を取り出し
 後縦靭帯を確認

【脊髄の観察】

- ⑦ 脊髄硬膜の前面のみを切り開き、以下の構造を確認
 脊髄円錐 頸・腰膨大 馬尾 前正中裂 クモ膜
 脊髄動静脈 歯状靭帯

椎弓の切除・脊柱管の開放

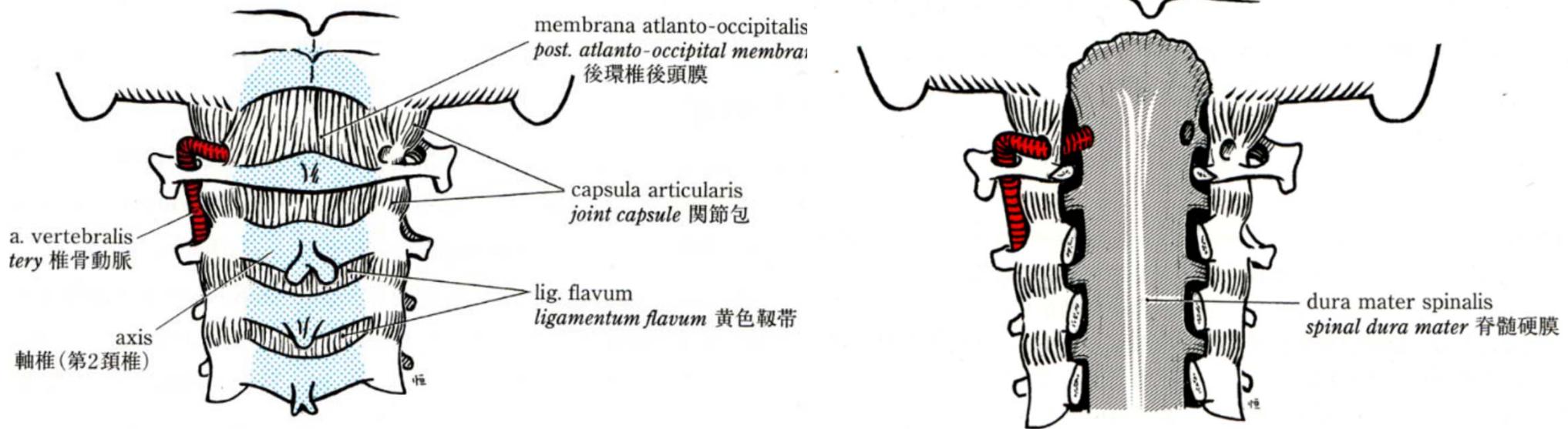


双鋸で切れ込みを入れる
(頸部上部, 腰部は双鋸を深くいれるのは難しい)
↓
ノミ・槌で椎弓全体を開放

環椎～仙骨まですべて開放

※脊髄硬膜を傷つけないように

椎弓の切除・脊柱管の開放(頸部)



後頭下筋群の除去

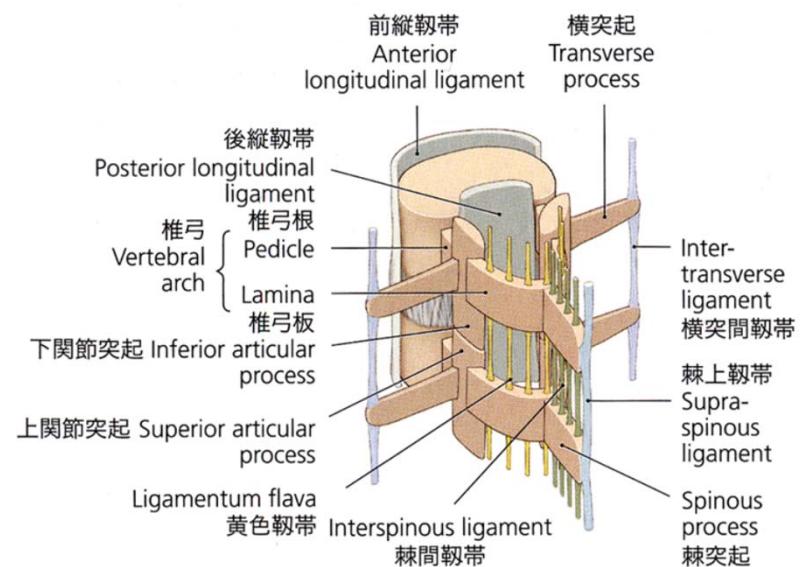
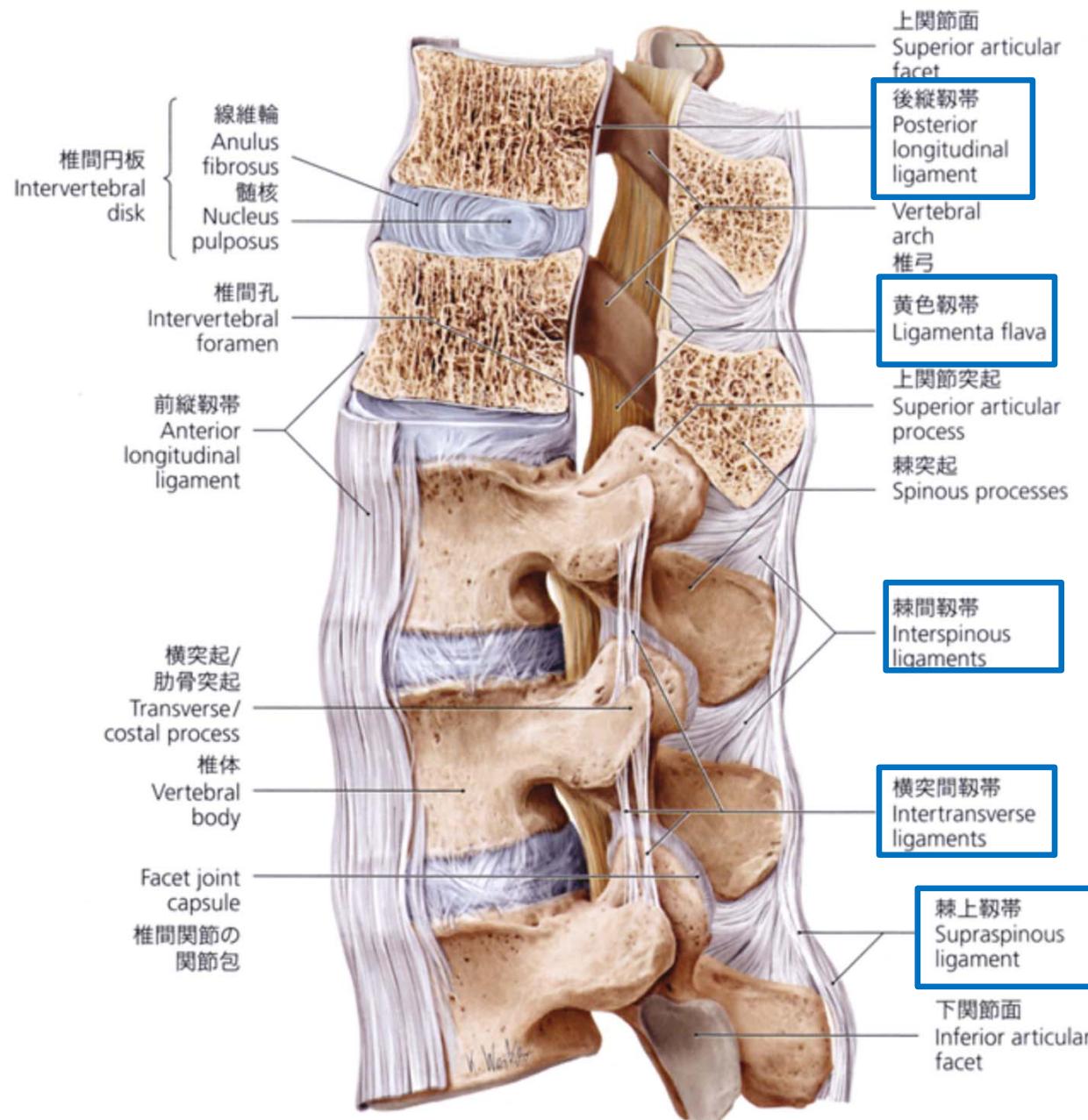
↓
環椎後頭膜を観察

↓
椎弓の除去

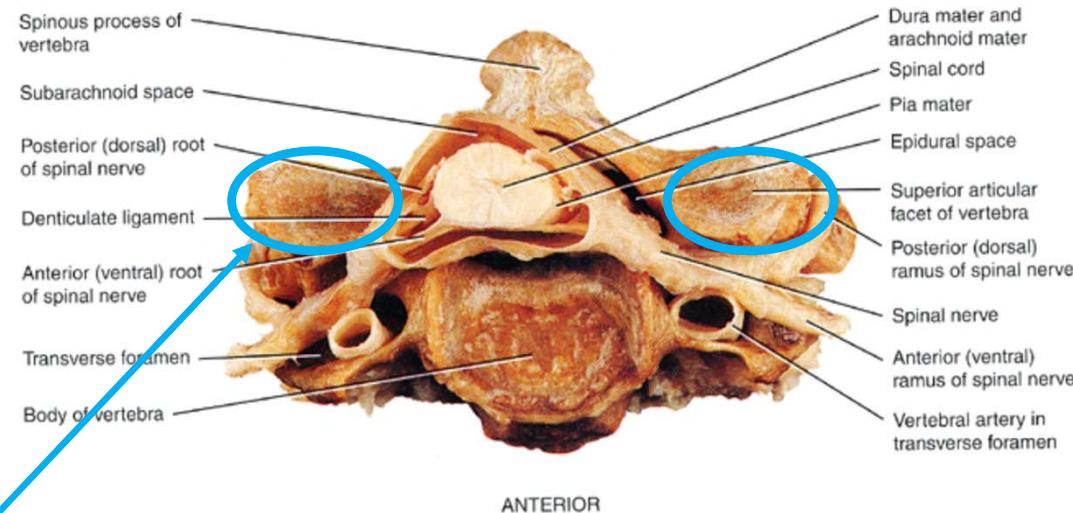
硬膜つきの脊髄を観察

上部では後頭骨の脳硬膜に移行

椎骨の靭帯



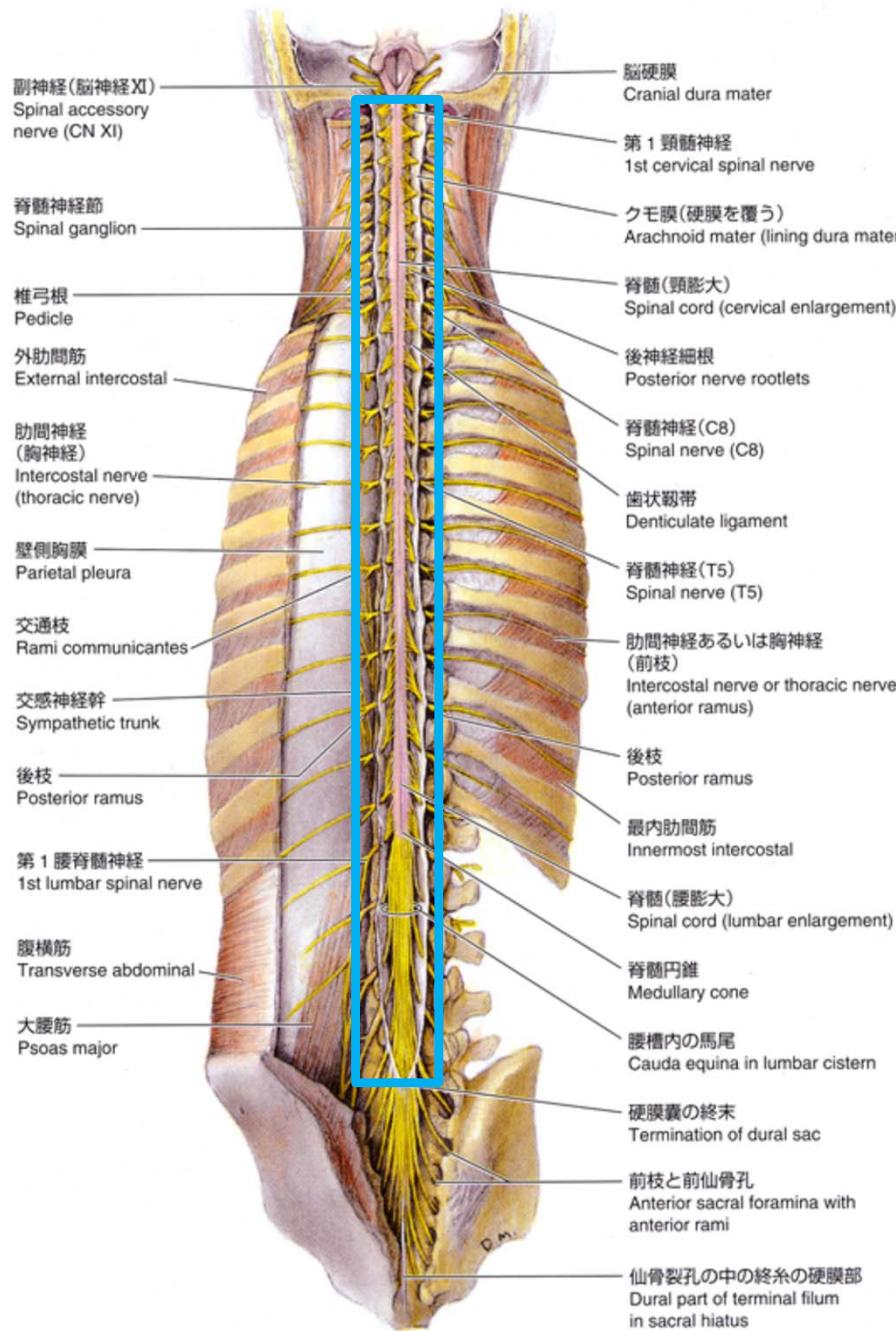
脊髓神経節の剖出



椎骨の外側部を細いノミ・骨鉗子で除去していく
↓

脊髓硬膜をつけたまま、
各レベルの脊髓神経の前枝・後枝を確認。
3対以上の脊髓神経節を細いノミで掘り出す。

脊髄の取り出し

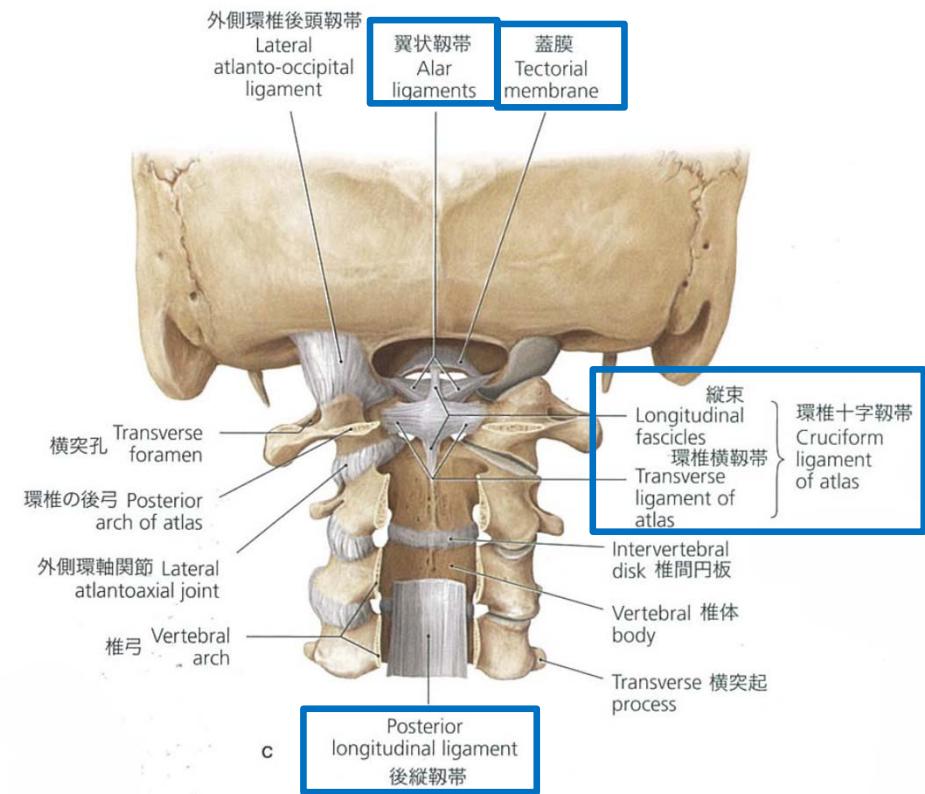
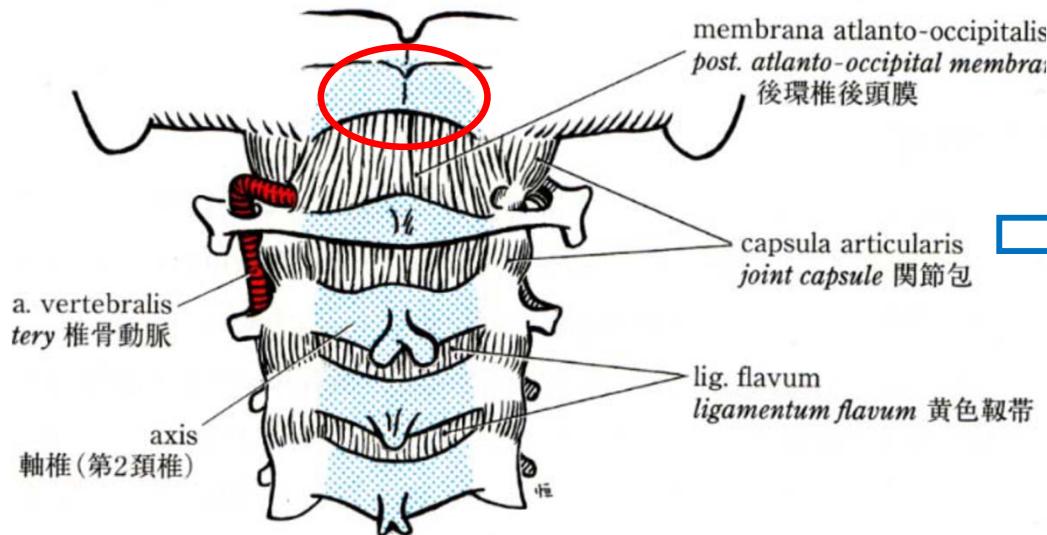


※この時点では硬膜は開放しないこと

後頭骨の直下から仙骨までの脊髄を硬膜付きで取り出す

- ご遺体は脳が取り出されているので、脊髄の上は切らなくてよい場合が多い
- 剖出した3対の脊髄神経節は、神経節から外側1cmくらいで切断
- その他の脊髄神経は脊髄から出て少ししたら切る

頸部の靭帯



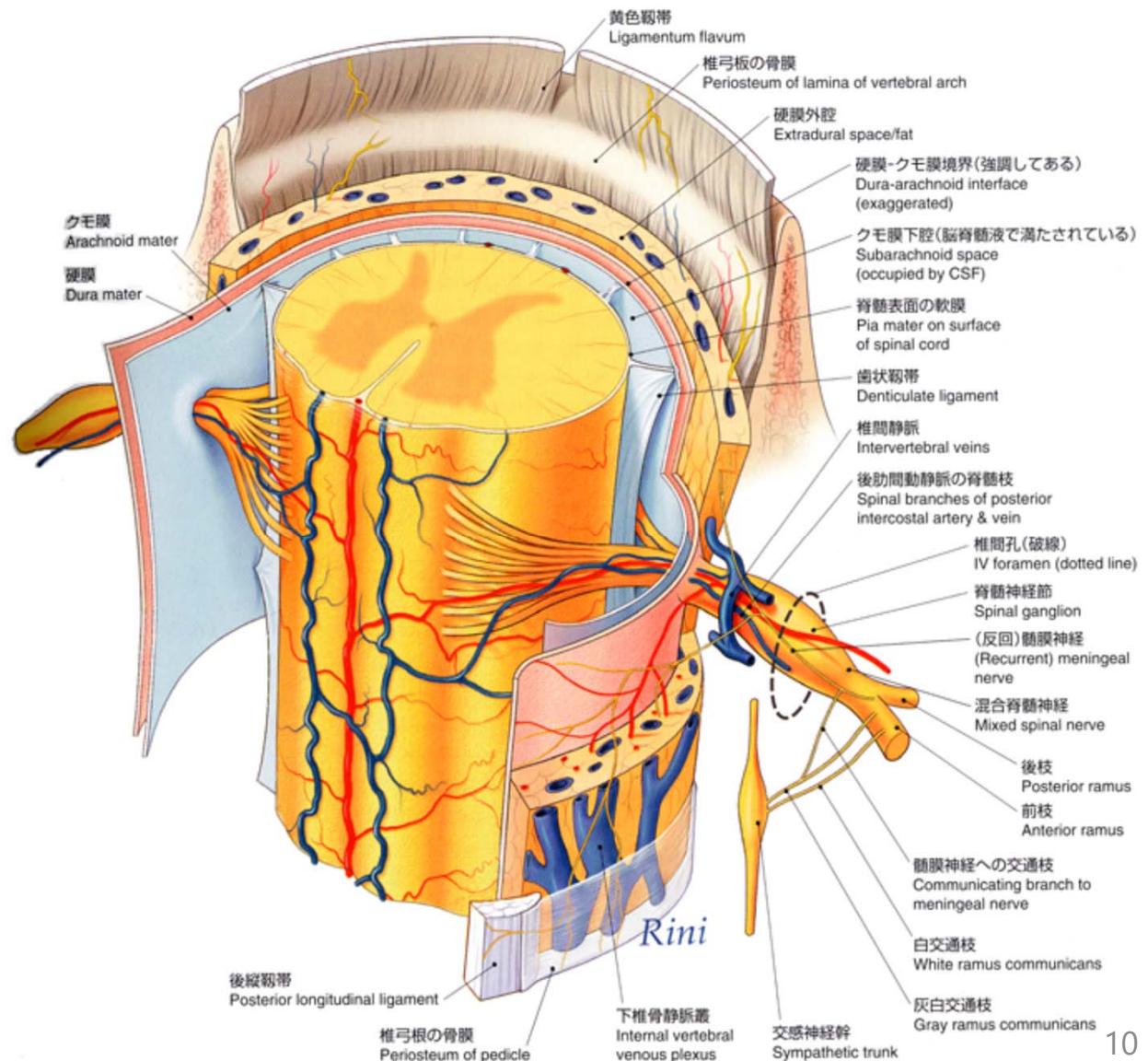
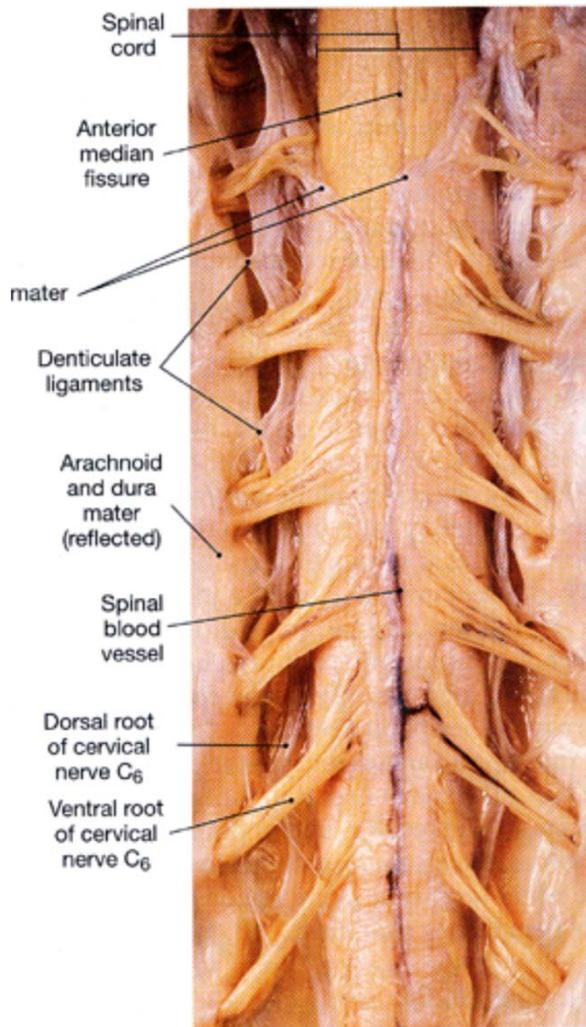
後頭骨の大後頭孔を骨鉗子で広げると観察しやすい

→ 後縦靭帯を剥がし、
後頭骨-環椎-軸椎の靭帯を確認

髄膜・脊髓の概形(取り出し後)

脊髓硬膜の前面のみを切り開き、以下の構造を確認

- 脊髓円錐
- 頸・腰膨大
- 馬尾
- 前正中裂
- クモ膜
- 脊髓動静脈
- 歯状靭帯



—— 指定した構造を剖出・チェックした後, 教員のチェック——

取り出した脊髄に正しい番号の木札をつけ、別容器にまとめて回収する
教卓前の金属製の保存容器へ